

- 自動車購入費助成 助成先を決定
- 住民参加型福祉活動資金助成 助成先を決定
- ジェロントロジー研究助成 対象者を決定
- 介護福祉士養成のための奨学金給付 奨学生を決定
- 学校訪問～介護福祉士養成のための奨学金給付事業
- 第25回SOMPO福祉財団賞 講演会・シンポジウムを開催

発行者 公益財団法人SOMPO福祉財団

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン本社ビル TEL：03-3349-9570 FAX：03-5322-5257

https://www.sompo-wf.org/ Eメール：office@sompo-wf.org



2024.12発行

自動車購入費助成 助成先を決定

自動車購入費助成は、障害者に対する福祉活動を行う団体にとってニーズの高い自動車購入資金を支援する事業です。本年度は西日本地区を対象に2024年6月から7月にかけて公募したところ、48件の応募があり、以下の10団体に合計1,620万円の助成を決定しました。

所在地	団体名	主な事業	助成金額 (予定) 万円
滋賀県	特定非営利活動法人 おおつ障害者の生活と労働協議会	障害者就業・生活支援センター事業	130
大阪府	特定非営利活動法人 しごとなかま	幅広くいろいろな障害像の方々を受け入れている就労継続支援B型事業所	170
和歌山県	特定非営利活動法人 ハートツリー	障害に起因する困難を含め生きづらさを抱える青少年たちの自立支援	130
鳥取県	特定非営利活動法人 季の風	障害者就労支援で説明書の封入など受託作業やお菓子の封入作業の施設外就労を行っている	170
岡山県	特定非営利活動法人 ふれんど久米	さをり織りや自動車部品組立の内職作業や農園で野菜栽培を行う就労継続支援B型事業所	170
高知県	特定非営利活動法人 Open Heart	重度重複の障害を持つ人たちが、住み慣れた地域で暮らし続けることができる拠点づくり	170
熊本県	特定非営利活動法人 オレンジワークの会	就労や共同生活を通じて、障害者の方々の経済的にも自立した社会生活の確立を目指す	170
大分県	特定非営利活動法人 清望会	地元森林組合から委託された業務を行う就労継続支援B型事業所	170
鹿児島県	特定非営利活動法人 心音	島の子どもを支援する放課後等デイサービス、子どもの居場所事業を運営	170
沖縄県	特定非営利活動法人 ナカヤ	障害のある利用者さんへ、身近な地域社会での生活の自立と就労を支援	170

※助成金の贈呈式は、損保ジャパンの各支店と協力のうえ、助成先団体にて開催する予定です。

2023年度贈呈先



<特定非営利活動法人 なないろサポートネット>

住民参加型福祉活動資金助成 助成先を決定

住民参加型福祉活動資金助成は、地域における高齢者・障害者・子ども等に関する複合的な生活課題に、地域住民が主体となって、包括的な支援を行う活動に必要な資金を支援する事業です。

2024年6月から7月にかけて公募したところ、52件の応募があり、以下の18団体に合計460万円の助成を決定しました。

所在地	団体名	助成する活動の名称	助成金額 (万円)
北海道	あかびら共生ネットワーク	ふれ愛ウォーク、研修会他の開催	30
福島県	喜多方市立上三宮小学校PTA	小学校の壁画リペイント	12
福島県	はまどおり大学	いわきこどもの人権ネットワーク事業	30
福島県	重症心身障がい児者と家族の会 スマイルリボン	重症児者・医療的ケア児者の災害対策を考える講演会	30
栃木県	城東常設型サロン じゃあ またね	誰もが心地良く使えるトイレにするための改修工事	20
埼玉県	狭山カーレットクラブまぜこぜ	共生社会をテーマにした子供向け紙芝居の製作と普及	30
埼玉県	全国農福学連携推進協議会	五感で学ぶサードプレイス「寺子屋えん」	30
東京都	Festival The Rainbow実行委員会	Festival The Rainbow	27
東京都	インクルーシブ運動場	誰もが思わず身体を動かしたくなるまちをつくろう	29
東京都	実家なんとかし隊	認知症があってもなくても参加できる「オレンジカフェ」	30
東京都	日本語教室「こんぱす」	外国にルーツを持つ子どものコミュニケーション事業	28
神奈川県	えがわさんち	地域の誰もが集える居場所づくり	10
神奈川県	まいまい子ども食堂	子ども食堂で子育て支援と地域の活性化！	28
富山県	おもちゃ病院ぺんぎん	あってよかった、おもちゃ病院ぺんぎんをめざします！	12
石川県	いしかわSCD・MSA友の会（難病 石川脊 髄小脳変性症・多系統萎縮症患者・家族会）	難病協働かがやきプロジェクトin石川	30
岐阜県	八木山地区社会福祉協議会	よりそい活動本格実施	30
静岡県	西豊田学区地域支え合い体制づくり 実行委員会	断水でも使える清潔で快適な防災トイレの活用と検証	29
愛知県	らっこちゃん親の会	働く自分ってかっこいい！SUN・GOからの第一歩	25

●助成先からの報告



草刈り支援

特定非営利活動法人
＜スサノオの風＞



7周年記念イベント



街歩きイベント

特定非営利活動法人
＜ウィーログ＞



イベント子どもフェスタ



レモネードスタンド募金風景

特定非営利活動法人
＜福岡子どもホスピスプロジェクト＞



ベッド型プール専用車イスで入水

特定非営利活動法人
＜プールボランティア＞

ジェロントロジー研究助成 対象者を決定

ジェロントロジー研究助成は、高齢者福祉の増進に資することを目的にジェロントロジー（老年学）に関する社会科学・人文科学分野における研究に助成を行う事業です。

全国を対象に2024年4月から7月にかけて公募したところ、38件の応募をいただきました。高齢者を取り巻く諸問題の研究や解明に取り組む、以下の16名の対象者に助成を決定しました。

※敬称略、共同研究の場合代表研究者

形態	対象者※	研究テーマ	金額 (万円)
共同	荒木 賢二 一般社団法人ヘルスシステム研究所・顧問、 宮崎大学名誉教授	介護現場における介護記録要約文書の生成を効率化し、介護行為に役立て、医療介護従事者間で介護行為の暗黙知を共有し活用することによって人材育成教育や介護従事者によって行われる作業等を効率化する。	50
共同	安東 彩乃 上智大学大学院実践宗教学研究科大学院生	中高年男性向けの「男性更年期のセルフモニタリングアプリ」の作成と評価	44
単独	梅谷 進康 桃山学院大学教授	在宅高齢者への生活支援や介護予防などのインフォーマル支援について、大学生によるボランティアの現状と大学生がその担い手になることの促進策を大学による組織的なサポートも含めて量的調査にもとづき考察する。	50
共同	岡本 聡美 千葉大学大学院看護学研究科大学院生	認知症高齢者の自律・自立を支援するための環境づくり看護実践ガイドを用いた一般病棟の環境づくりを一般病棟の看護師により実施する。その結果から、ガイド活用の効果と課題を明らかにする。	50
単独	狩谷 明美 社会福祉法人旭川荘 旭川荘総合研究所研究員	これまで収集している高齢者のフレイル関連データを後ろ向きに観察し、疲労感レベルを、自律神経・体組成・睡眠時間から検討し、複数要因数理モデルを用いて、カットオフ・ポイントを探索する。	50
単独	Kim Nahyun 神戸大学大学院人間発達環境学研究科大学院生	高齢者の孤独感は、人と関わり合う社会的相互作用によって、変動し得るのか。日常的な社会的相互作用の相手や量、質と瞬間的孤独感を縦断的に追跡できる経験サンプリング法より、孤独感の変動を解明する。	50
共同	杉本 浩章 日本福祉大学福祉経営学部教授	ソーシャルデザインに基づくアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の促進効果と終末期ケアの質の検証	50
単独	竹内 真純 東京都健康長寿医療センター研究所 非常勤研究員	マイクロアグレッションとは、日常生活の中で知らず知らずのうちに特定の集団成員を傷つける言動を指す。本研究では、日本の高齢者が日常の中で経験する、年齢に関わるマイクロアグレッションを明らかにする。	50
共同	西尾 美登里 西九州大学看護学部看護学科准教授	異性である妻や母を在宅で介護している男性を対象に、助けを求める力とレジリエンスを向上する基礎的調査を実施し（インタビュー＋トレーニング）、介護生活の継続への効果を検討する。	50
共同	畑中 綾子 尚美学園大学総合政策学部准教授	高齢者支援技術の導入による高齢者の内心の自由および自由な意思決定の侵害に対するELSI（法的倫理的社会的課題）の研究	50
共同	深瀬 裕子 北里大学医療衛生学部准教授	地域在住高齢者の会話による音声コミュニケーション能力と聴覚ワーキングメモリおよび聴力の関連：コミュニケーション、聴覚ワーキングメモリ、聴力の盲検法評価による検証	50
単独	福田 文雄 北九州総合病院副院長	健診の胸部X線画像によるAI骨粗鬆症スクリーニングの実証研究 健康診断で撮影した胸部X線画像を二次利用して骨粗鬆症スクリーニングを実施し、骨粗鬆症の早期発見にどの程度寄与できるかを明らかにすること	50
単独	堀口 康太 白百合女子大学発達心理学部准教授	サービス付き高齢者向け住宅への転居を通して、高齢者がどのように適応していくのかについて、転居動機という観点から検討すること。	28
共同	三浦 武 横浜国立大学医学部看護学科助教	高齢者の医療施設への定期的な通院と診察待ち時間がヤングケアラーとビジネスケアラーの社会生活に及ぼす影響と支援ニーズに関する実態調査	50
共同	横山 淳美 島根県立大学看護栄養学部看護学科講師	認知機能の低下予防と腸内細菌叢との関連	50
共同	米澤 大輔 新潟大学大学院医歯学総合研究科准教授	地域在住高齢者の健康管理を改善するため、自己管理情報を客観的に把握し、地域包括ケアシステムへ効果的に貢献する手法を検証する。行動変容の要因を分析し、へき地でも可能な健康管理システムの構築を目指す。	50

2022年度ジェロントロジー研究助成者の研究成果を纏めた「ジェロントロジー研究報告No.16」を発行いたしました。

報告書をご希望の方は財団事務局にご連絡ください。HPにもデータを掲載しています。

(<https://www.sompo-wf.org/>)



介護福祉士養成のための奨学金給付 奨学生を決定

全国の介護福祉士を目指す専修学校、福祉系高等学校の学生・生徒向けに募集を行い、専修学校生12名、高校生4名の合わせて16名の奨学生を決定しました。1992年から本制度を開始し、昨年度までの32年間で奨学生は337名にのぼり（奨学金総額約2.3億円）、卒業生は全国の老人ホーム等の介護関連施設で活躍しています。



実習の様子

学校訪問～介護福祉士養成のための奨学金給付事業



奨学生と関係者

現在、奨学生2名が在籍する「栃木介護福祉士専門学校（栃木県宇都宮市）」を訪問し、お話を伺いました。

栃木介護福祉士専門学校は、栃木県で最初（1991年）に開校した介護福祉士養成のための専門学校です。2023年2月に現在の新校舎に移転しました。グループ内で特養・ケアハウスなどの高齢者福祉施設を複数運営しているため現場に密着した



授業風景



多言語による表記

教育が可能となっており、先輩の生の声を聴くこともできます。数年前から留学生が増加しており、現在ではとても国際色豊かとなっています。

第25回SOMPO福祉財団賞 講演会・シンポジウムを開催

7月28日（日）東京都千代田区のグランドアーク半蔵門にて、「SOMPO福祉財団賞^{*}」の受賞記念講演会、シンポジウムを開催しました。大学関係者、学生・研究者、企業・行政の担当者、社会福祉団体関係者の皆様など、約50名の方にご参加いただきました。

※「SOMPO福祉財団賞」とは

社会福祉分野における優れた社会福祉学術文献を表彰する制度です。社会福祉の学問的探求を志向する多くの学者、研究者の研究意欲を促進し、社会福祉の発展に寄与することを目的としています。

第Ⅰ部では、第25回「SOMPO福祉財団賞」の受賞者 丹波 史紀氏（立命館大学産業社会学部教授）が、受賞著書『原子力災害からの複線型復興－被災者の生活再建への道』について講演されました。

第Ⅱ部では、『大規模災害とソーシャルワーカー複線型復興の可能性』をテーマにシンポジウムを開催しました。会場からの質問も踏まえて、白熱したディスカッションがなされました。

参加者からは「理論、実践の様々な観点から複線型復興について話を聞くことができ勉強になった」「DWAT（災害派遣福祉チーム）活動を初めて知り興味深かった」「東日本大震災による被害から復興、その先の課題まで実際の現場の話を知ることができよかった」「これから起こりうる災害に向けて、個人ができる行動や地域福祉社会での共助、公助の連携した役割が大切だと思った」「本質的な復興に福祉の力は重要であることを認識した」など多くの感想が寄せられました。

【シンポジウムご登壇者】

- パネリスト：伊藤 美子氏〔（福）山田町社会福祉協議会地域福祉課係長、生活支援相談員〕
 大島 隆代氏〔文教大学人間科学部准教授〕
 武田 康晴氏〔華頂短期大学幼児教育学科教授〕
 丹波 史紀氏〔立命館大学産業社会学部教授〕
 コーディネーター：秋元 美世氏〔東洋大学大学院社会福祉学研究科特任教授〕
 大島 巖氏〔東北福祉大学副学長・教授〕

